

2010年度

(平成22年度)

海外技術研修員等 研修報告書



仁風閣（鳥取市久松公園）と桜

鳥 取 県

はじめに

海外技術研修員受入事業は、将来を担う海外の青年を「海外技術研修員」等として招き、必要な技術を習得していただくものです。母国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との友好親善を図ることを目的としています。

鳥取県では1987年度、友好関係にある中国河北省から「農業研修生」「緑化研修生」として5名を受け入れて以来、2010年度までにブラジルから33名、中国から121名、モンゴルから20名、パラグアイから1名の合計175名を受け入れてまいりました。

このほかにも「韓国江原道行政実務研修生」「外務省長期青年招聘事業研修員」「国際協力機構（JICA）自治体連携研修員」等として来県した研修員も韓国、モンゴル、ブラジルなど6カ国29名に上ります。

2010年度は、「海外技術研修員」としてブラジルから1名、モンゴルから1名の計2名が来県され、県内の各受入機関で研修を受けました。このほか、韓国江原道から「行政実務研修生」1名、ブラジルから「短期再研修員」1名、モンゴルから「JICA医療研修員」2名が来県され、県内の各受入機関において研修を行いました。

海外の地方自治体職員が日本の地方行政のノウハウなどを習得するための「自治体職員協力交流事業」では、1996年度から2010年度までにベトナム、韓国、マレーシア、中国から合計25名を受け入れております。2010年度は、中国から1名、韓国から1名が来県され、鳥取県庁において研修を行いました。

また、ブラジルからの「県費留学生」も2010年度までで計58名となり、自治体レベルでの国際協力は着実に進展しております。

これら研修員の皆さんは、言葉や気候・生活習慣の違いという壁もありましたが、研修機関の熱心な御指導もあり、技術・知識の習得に励むことができました。また、研修期間を通じての日本語学習のほか、県内および国内各地を訪れ、日本文化への理解を深めるとともに、県民との交流に努められました。

帰国後は、研修や勉学の成果を十分に活かし、母国の発展に貢献するとともに、わが国との友好の架け橋となってくれと期待しております。

この報告書は、研修員が学んだ内容や日本や鳥取県の印象などをまとめたものです。研修員の皆さんの意気込みと成果を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり御協力いただきました関係機関の皆様に、厚くお礼申し上げます。

2011年4月

鳥取県文化観光局交流推進課長 小牧 兼太郎